

那須烏山

— No.89 —

2013
February

2

Public Relations Magazine
of Nasukarasuyama City

在宅医療を考える……………	2
平成25年第1回市議会……………	6
中山がぼちゃアイス誕生・七合小新体育館完成…	7
華やかに門出を祝う(成人式)……………	8
鴻野山Aが初優勝(駅伝競走大会) …	9
全国学力・学習状況調査より……………	10
受賞おめでとうございます……………	14
まちの話題……………	16
インフォメーション……………	18
イメージキャラクター決定……………	20



二十歳の門出(成人式)



高齢化社会を迎え 在宅医療を考える

高齢化の急速な進行等により、長期にわたる療養や介護を必要とする患者、病院で最期を迎える高齢者の増加が見込まれます。そのような中、誰もが住み慣れた自宅や地域で安心して暮らすことや、病院本来の急性期治療（病状が落ち着くまでの間の治療などの役割を維持していくためには、「在宅医療」の充実を図ることが必要です。

しかし、県東部では、在宅医療の基盤整備が十分に進んでいないのが現実です。今月号では、この在宅医療の必要性や課題などについて一緒に考えてみましょう。

看護師が自宅を訪問し病状観察などを行う。

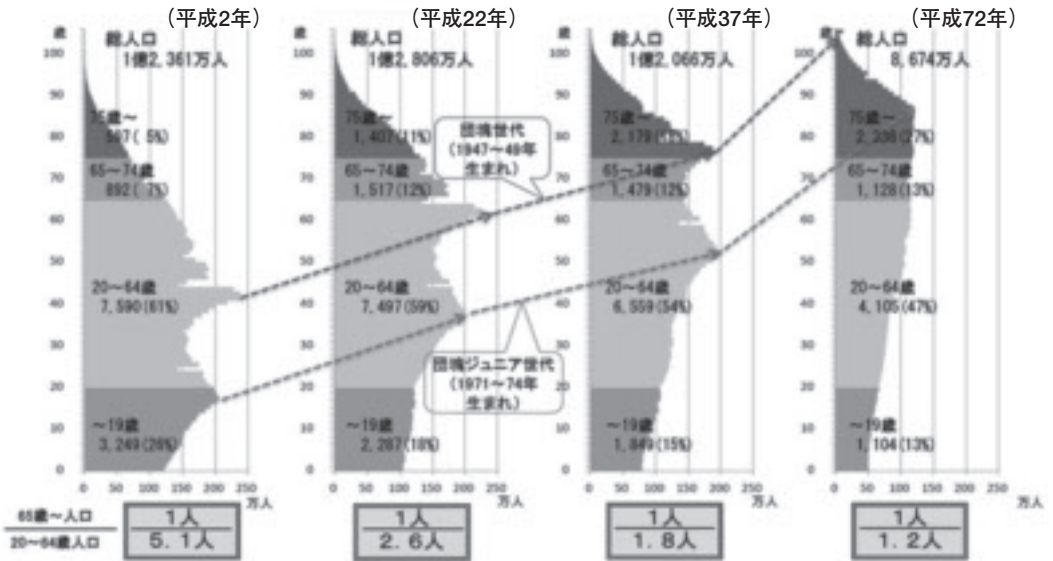
長期療養と 看取りに追われる病院

在宅医療とは、急性期治療を終えた後などに、医師、歯科医師、看護師、薬剤師等の医療関係者が、患者の自宅など

を訪問して提供する医療行為のことです。では、なぜ、この「在宅医療」が必要なのでしょう。その理由は、急速な高齢化の進行（グラフ1参照）により、病院本来の役割である急性期治療などに支障

(グラフ1)人口ピラミッドの変化

○日本の人口構造の変化を見ると、現在1人の高齢者を2.6人で支えている社会構造になっており、少子高齢化が一層進行する平成72年には1人の高齢者を1.2人で支える社会構造になると想定。



(出所)総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)；出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口)

(※1)在宅療養支援診療所とは、在宅医療を受ける人のために、その地域で主たる責任をもって診療にあたる診療所のこと。24時間の連絡体制や訪問体制、緊急時の検査・入院時のベッド確保等、かかりつけ医として一元的に療養管理を行う。

(※2)訪問看護ステーションとは、医師の指示を受けた看護師等が、自宅等を訪問し、床ずれなどの医療的処置や病状観察などを24時間体制で行う事業所のこと。

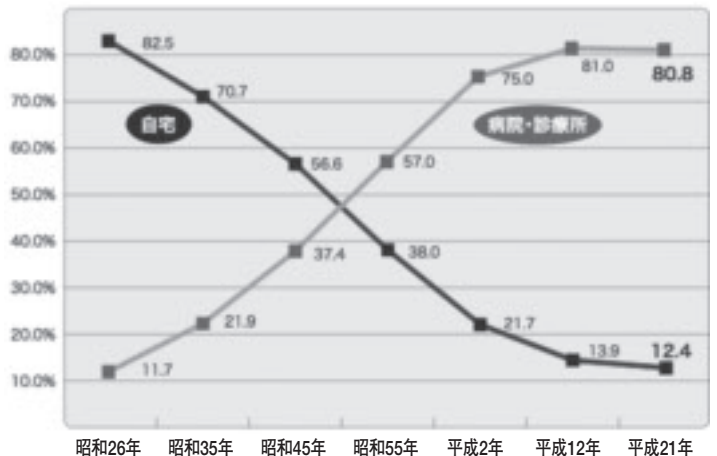
をきたす恐れがあるためです。というのも高齢化が進むことで、認知症や高齢者一人暮らし・高齢者夫婦のみの世帯の増加、さらには、死亡件数の激増が予想されます。そのため病院では、長期にわたる療養や介護を必要とする患者への対応、高齢者の看取りに追われることになるのです。

さらに、人生の最期を迎えるのは「病院」というのが常識となりつつあることも問題です。厚生労働省の「人口動態統計」によると、国民の死亡場所は、昭和26年に自宅が82.5%、病院・診療所が11.7%でした。その後、昭和50年代に自宅と病院の割合が逆転し、平成21年には自宅が12.4%、病院が80.8%と大きく変化しました(グラフ2参照)。

以前は住み慣れた自宅で、家族に見守られながら人生の最期を迎えていたのが、現在は、ほとんどの人が病院で最期を迎えるようになったのです。

しかし、在宅医療の必要性が認識されていても、当地域では基盤整備があまり進んできませんでした。

(グラフ2)【日本人の死亡場所推移】



在宅医療を推進するためには、まず、往診や訪問看護が24時間365日対応可能な体制の整備が必要となります。しかし、これを開業医1人で対応するのはとても困難なこと。そして、医師や看護師などの人材確保に追われる病院が、訪問看護運営にまで乗り出すことも難しいのが現実です。

市内初の 訪問看護ステーション

在宅医療を進める上で中心的役割を担うのが、在宅療養支援診療所(※1)や訪問看護ステーション(※2)等です。こ

れらは、いずれも24時間体制をとる必要があるものです。

これまで、24時間の緊急訪問に対応できる機関が空白であった当地域で、昨年5月、「訪問看護ステーション あい」が開設されました。このことは、当

地域の在宅医療を推進する上で、大きく一步前進したものと いえます。しかし、今後の高齢化を考えると、在宅療養支援診療所が存在しないなど、まだまだ多くの課題が残されています。

訪問看護ステーション あい

管理者 横山孝子さん

昨年5月、市内で「訪問看護ステーション あい」を開設した横山孝子さん。それまで勤務していた那須南病院の看護師時代に、在宅医療の重要性を強く感じ、24時間の緊急訪問体制が空白だった当地域で、その第一歩を踏み出しました。

訪問看護では、まず、患者や家族が抱える「不安」を引き出すことから始まります。それを一つずつ取り除いていくことが重要です。利用者として1対1で向き合うため、個人の技量も求められます。

横山さんは、那須南病院で救急外来や手術室担当として看護業務に従事。そこで、明らかに「老衰」な

常勤。利用者は約30人で、ほとんどが高齢者です。夕方から夜間は、横山さん1人で対応という厳しさですが、「これまでの経験を生かすことができ、いい時期にスタートできたと思う。体制の充実を図り、利用者のニーズにもっと応えたい」と熱心に話していました。



「地域医療の連携はこれから」と横山さん。

スタッフ不足・

急変時対応などの課題

栃木県第6期保健医療計画(素案)によると、県内の在宅医療の状況は、在宅療養支援診療所・病院・訪問看護ステーションの施設数、医師・従業員数はいずれも全国平均を下回っています。県内の医療機関で在宅医療を実施していない理由としては、「スタッフの不足」が挙げられています。

その一方で、約6割の県民が、病気になっても自宅での療養を望んでいます。しかし、それを実現できない理由として、「急変時の対応に関する不安」家族の負担への懸念」などが挙げられています。そのため、急変時に対応するための連携体制の構築やベッドの確保、家族を支えるための相談体制の充実などが必要となっています。

これらの問題解決に向け、行政や医療機関、地域などでは、様々な取り組みを行っています。

在宅医療推進

支援センター(仮称)設置

県では在宅医療・介護の多職種連携を支援するために、「在宅医療推進支援センター」(仮称)を今年4月、県内5か所の健康福祉センターに設置する予定です。県東部に在宅医療の拠点となる施設が少ない一方、県南部では充実している地域があるなど、地域ごとの課



「やっぱり自宅がいい」と川上さんご夫妻。

訪問看護サービスを利用し自宅で暮らす 川上修さん・ミエさん

院を繰り返し返したミエさんは、病状観察やリハビリなどを受けています。歩くのが大変でも、「自宅で暮らせてうれしい」と話します。「みんなとても親切で助かる」と話すお二人は、在宅のサービスを上手に利用し、住み慣れた地域で元気に過ごしています。

下境の川上修さんとミエさんご夫婦は、訪問看護や介護ヘルパーなどのサービスを利用しながら、自宅で暮らしています。修さんは、訪問看護の病状観察や服薬管理などを受けており、部屋には、事業者が作ってくれた薬のカレンダーが飾られています。

題も異なるため、県内を10の在宅医療圏に区分けし、課題解決に努めます。

また、夜間や医師不在時に、他の医療機関に代わって往診などを積極的に行う在宅療養支援診療所の情報を3月末に公表予定です。この情報は、人材不足で在宅医療に二の足を踏んでいる医師の参入促進にも役立てられます。

那須南病院でも 医療連携室や連絡会

関係機関同士の連携強化が求められる中、那須南病院では、平成18年4月に医療福祉相談・医療連携室を開設し、昨年4月には、病院1階に専用の部屋を設け、患者や家族の相談などに応じて

います。連携室の主な業務は、患者の福祉相談、他医療機関から療養型病床への転院相談、退院調整、家族との面談等です。

昨年12月には、「患者と家族を支援するための連携強化会議」を開催。地域の医療・保健・福祉関係者等が一堂に会し、退院支援の現状、訪問看護、物忘れ外来

などに関する情報の共有化を図りました。

市民の関心も 高まる在宅医療

在宅医療に対する市民の関心も高まってきたようです。南那須地域医療を守る会米山正人代表では、昨年11月、「これからの地域医療・介護・福祉のあり方を考える」をテーマに討論会を開き、多くの市民が身近に迫ったこの問題を真剣に考えました。

県医師会が 連絡会設立

県医師会では、昨年11月、在宅医療に取り組み病院と診療所の組織「県医師会在宅療養支援診療所・病院連絡会」を立ち上げ、在宅医同士の相互支援や医療技術の向上などに取り組んでいます。連絡会の役割は、夜間など医師不在時の代理往診など連携体制の支援、医療用麻薬の正しい扱い方など終末期医療に必要な技術の研修、市民向け啓発活動などです。

現在の在宅医療の質は、病院医療に劣らないといわれています。医療機器や介護機器の発展、新薬開発、各種介護保険サービスの充実、地域ネットワーク（緊急通報装置、認知症見守り、虐待防止等）や情報ネットワーク（電子カルテ、携帯電話、遠隔医療等）の整備により、高度な医



地域の関心が高まり開かれた「南那須地域医療を守る会」の討論会。

那須南病院 医療福祉相談・医療連携室

那須南病院では、福祉相談の需要が高まり、関係機関との連携強化などが必要となったため、平成18年4月に医療福祉相談・医療連携室（原健二室長）を開設しました。

現在、連携室には医師、看護師、

医療ソーシャルワーカー（社会福祉の視点で、患者や家族の相談に応じる）を配置し、患者が地域で自立した生活を送ることができるよう支援しています。医療ソーシャルワーカーは、院外の各種連絡会や勉強会に出席し、研修や意見交換をしています。

支援のケースは、ほとんどが高齢者。地域では、疾病のある高齢者が、安心して生活できるような受け皿の充実が必要です。それには福祉サービスだけでなく、地域で見守りができるような助け合いの心も必要ではないでしょうか。

今後は、地域包括医療・ケアの環境として、他の医療・介護・福祉機関とのさらなる連携強化を図っていきます。

連携室スタッフの皆さん(前列中央が原室長)。



療が提供可能となっております。さらに、在宅医療を支えるために、日常生活圏内で医療や介護、介護予防、住まい、生活支援サービスなどを一体的に提供できる「地域包括ケアシステム」といった仕組みづくりも進められています。

皆さんも「病院の役割」をもう一度見つめ直すと共に、いつまでも住み慣れた自宅や地域で過ごすための方法などを考えてみてはいかがでしょうか。

在宅医療に関して詳しくは、健康福祉課 ☎0287-188-7115 までお問い合わせください。

第1回市議会



副市長の選任を同意

○副市長の選任

昨年4月から空席となっていた那須烏山市副市長に、2月1日付で國井豊氏(落合)を選任することが同意されました。國井氏は昭和44年4月に旧烏山町職員となり、平成23年3月まで42年間、行政事務に従事。2町合併後には、企画財政課長、総合政策課長として活躍し、退職後には、那須烏山市観光協会事務局長を務めていました。

○工事請負契約に関する紛争の仲裁

那須烏山市学校給食センター新



國井副市長

築工事請負契約に関する紛争の解決を図るため、栃木県建設工事紛争審査会に仲裁判断を仰ぐことになりました。

詳しくは、議事事務局 ☎0287-88-7114 までお問い合わせください。

自主防災組織の結成進む

市では、地域の安心・安全を確保するため、市民の防災意識向上や地域における自主防災組織の結成などを推進しています。現在、規約を定め組織化したのは、昨年4月に発足した小倉自治会自主防災会(高津戸弘会長)だけですが、今年4月の発足に向け、準備を進めている自治会もあります。

自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」とい

の結成進む

う意識のもと、自主的に結成する組織です。大規模な災害が発生した場合、国や県、市町村の対応だけでは限界があり、地域や近隣の人たちが互いに協力し合い、防災活動に組織的に取り組むことが必要とされています。小倉自治会自主防災会では、規約に定めた防災計画に基づき、11月25日に炊き出しや講話などの防災訓練を実施しました。



小倉での防災訓練活動。

■市の工事請負等契約

(前月20日までの入札結果、単位は千円、130万円以上)

事業名	箇所	業者名	金額	工期
大桶小志烏境線道路整備工事その3	大桶	(株)荒川建設	21,420	12/27~3/25
大桶小志烏境線道路整備工事その4	大桶	荒井工業(株)	24,150	1/8~3/25
旧国民宿舎烏山わらび荘解体工事	小原沢	(株)関谷建設	15,645	1/7~2/28
二原線設計業務委託(道路整備費)その31	小河原	東洋測量設計(株)	5,092	12/26~3/25
大桶小志烏境線設計業務委託(道路整備費)その31	大桶	宇都宮測量(株)	6,090	12/25~3/25
農業体質強化基盤整備促進事業 東原地区 頭首工工事	東原	(株)中山建設	11,970	1/4~3/29
滝田水源井戸揚水試験調査業務委託	滝田	(株)工藤設計	2,625	1/8~3/10
高瀬地内配水管布設設計業務委託	高瀬	(株)工藤設計	1,312	1/8~3/10
烏山図書館駐車場舗装工事	中央	(株)関谷建設	4,389	1/10~3/25
鴻野山小倉線舗装修繕工事(道路保全費)その1	小倉	(有)板橋建設	4,021	1/9~3/25
芦生沢弥五郎線道路災害防除工事(道路保全費)その1	小倉	木島興業(有)	2,058	1/15~3/25
道西馬場北線道路排水施設整備工事(道路保全費)その1	野上	小林建設(株)	3,202	1/10~3/25

入札等に関するお問い合わせは、総務課管財係 ☎0287-83-1111 まで。

中山かぼちゃアイスクリーム誕生

那須烏山市特産の中山かぼちゃを使ったアイスクリームが完成し、1月17日、宇都宮市文化会館で記者発表されました。

これは、菓子類等の製造販売で全国展開するフタバ食品(株)と本市が、フードバレーとちぎ構想(※)に賛同して締結した「連携と協力に関する協定」に基づき、共同研究開発した特産商品の第1弾です。中山かぼちゃは、限られた生産者が管理栽培することで、高い品質を保っている高級かぼちゃ。薄い皮で甘みが濃く、ぼくぼくとした食感が特徴の希少な野菜です。この特徴を生かし、生クリームや脱

脂濃縮乳を加えてできたのが、「中山かぼちゃアイスクリーム」です。芳醇な風味はそのままだにクリーミーな味わいに仕上げられました。販売価格は110ミリリットル

で250円。1万個製造されます。1月18日には、東北自動車道「上河内サービスエリア(下り)」と「道の駅うつのみやろまんちっく村」を皮切りに、市内スーパーや山あげ会館・龍門ふるさと民芸館、東京スカイツリーの「とちまるショップ」等で、順次販売していきます。

市と同社では、協定に基づき今後も市の農産物等を活用した特産商品の研究開発に取り組んでいき



ます。

(※)フードバレーとちぎ構想とは、「食」をテーマに地域経済が成長・発展し、活力あふれる「とちぎ」を目指す取り組み。



上…記者発表する大谷範雄市長(右)と増淵正二フタバ食品(株)社長/下…開発された中山かぼちゃアイスクリーム。

完成した体育館。



七合小新体育館が完成

市が新築工事を進めていた七合小学校体育館がこのほど完成し、1月8日、同館で竣工式が開催されました。

これまでの体育館は、昭和48年に建築され40年が経過。老朽化が進み、平成23年度の耐力度調査では、老朽度が高いことが判明しており、トイレや水道、器具庫などの設備も十分ではないことから、施設を新築し教育環境の充実を図ったものです。

竣工式には、関係者や来賓、七合小の全児童や教職員など230人が出席。大谷範雄市長が、「子どもたちの教育の振興発展のため役立てて欲しい」とあいさつし、同校6年の小口桃佳さんが、「新しい体育館での卒業式が楽しみ。この体育館に恥じないよう誇りを持って学校生活を送れるよう努力する」とお礼の言葉を述べました。

体育館は、鉄骨1階建てで延べ床面積が950・22㎡、事業費は約3億4300万円です。学校開放施設として、市民の健康づくりや体力向上などにも役立てられます。なお、旧体育館は取り壊され、跡地は駐車場として整備される予定です。



「デマンド交通」ご利用を!

市では、「デマンド交通」の試験運行を南那須地区全域と烏山地区指定施設(烏山庁舎・那須南病院)で実施しています。利用には、登録(市役所、大金タクシー、きずな運営センター)と乗車1時間前までの予約が必要です。

○運行

月～金(祝日、年末年始は除く)
午前7時30分～午後4時30分

○予約センター(きずな運営センター)

☎0287-82-8252

受付:月～金(祝日、年末年始は除く)

午前8時～午後5時

■総務課 ☎0287-83-1111

新体育館の完成を祝う式典。



平成25年成人式

華やかに門出を祝う

「成人の日」より一足早い1月6日、風月カントリー倶楽部で平成25年那須烏山市成人式が開催されました。今年の新成人307名のうち233名が、真新しいスーツや羽織はかま、あでやかな振袖姿で出席。懐かしい小中学校の恩師や市関係者などから祝福を受け二十歳の門出を祝いました。

会場には式の始まる30分前ごろから新成人が続々と集まり、旧友との久しぶ



会場には笑顔があふれる。

りの再会を喜ぶ声や晴れやかな笑顔があふれ、成人式にふさわしい華やいだ雰囲気になりました。

新成人が企画・運営

本市の成人式は、新成人らによる実行委員会が、9月から会議を重ね準備を進めてきたものです。今年のテーマは「絆〜仲間のために〜」。当日の式典の司会進行、会場設営、アトラクションのビデオレター取材編集など、委員が旧友のため奔走し、すべて手づくりで行われました。

式典では、大谷範雄市長が、「毎日の積み重ねが、やがて大きなことを成し遂げることにつながる。ぜひ、今自分ができることを頑張り、大きな夢をかなえてください」とあいさつ。実行委員長望月萌さんは、「今日という日を境に、一人の大人として成人の自覚を持ち歩んでいきます。また、未熟な私たちですが、これからもご指導・ご鞭撻をお願いします」と、新成人を代表してあいさつを述べました。



歓声があがる 恩師からの祝福

式典に続くアトラクションは、恩師からのビデオレターと、なつかしいアルバム写真のスライドショーでした。このビデオレターは、委員が自らの足で恩師の赴任している学校8か所、総勢13名を訪ね、2か月かけて編集した大作です。作り込まれた映像は、字幕付きで見やすく来賓や新成人に好評でした。式が終わると会場の内外で、恩師や



①



②



③



④



⑤

友人との記念写真撮影や連絡先の交換など、時間が過ぎるのを惜しみながら旧交を温めました。

新成人の皆さん、おめでとうございます。今後の活躍を期待しています。

①望月委員長の新成人代表あいさつ②思い出がよみがえる恩師のビデオレター③「また会おうね」と再会を約束④会場のあちこちで「久しぶり」との声⑤昔と変わらぬ旧友と記念撮影。

鴻野山チームの皆さん。



優勝目指して一斉にスタート。



優勝のゴールテープ。

第7回那須烏山市駅伝競走大会

鴻野山Aが初優勝

大会結果 (新は大会新記録)

■総合成績

①鴻野山A	1時間18分32秒 新
②藤田	1時間19分57秒
③中央北	1時間20分14秒
④志鳥	1時間21分12秒
⑤七合	1時間21分28秒
⑥八ヶ代	1時間22分23秒
⑦境支部	1時間23分47秒
⑧熊田	1時間24分25秒
⑨広域消防	1時間25分42秒
⑩山あげA	1時間27分37秒
⑪向田支部	1時間28分03秒
⑫鴻野山B	1時間30分25秒
⑬山あげB	1時間33分36秒
⑭市役所駅伝愛好会 (オープン参加)	1時間34分33秒
北RC	1時間28分42秒

■区間賞(敬称略)

()は区間距離km・チーム名

1区(1.2)高野亮(七合)	4分02秒 新
2区(2.1)柳田尚皓(中央北)	6分32秒 新
3区(2.4)小堀佑真(市役所駅伝愛好会)	8分09秒 新
4区(2.5)塩田翔平(藤田)	8分09秒
5区(2.0)小池崇(鴻野山A)	7分25秒
6区(2.6)佐藤律(鴻野山A)	8分57秒
7区(2.2)青山栄一(中央北)	8分11秒 新
8区(2.7)佐藤和馬(鴻野山A)	8分31秒 新
9区(1.5)青山怜佳(熊田)	5分25秒 新
10区(2.8)高野駿(向田支部)	9分25秒 新

第7回那須烏山市駅伝競走大会が、1月13日に開かれ、昨年と同じ烏山運動公園から保健福祉センターまで10区22kmのコースに15チームが参加し、鴻野山Aが初優勝を飾りました。

当日は、午前10時の号砲を合図に小学生選手が烏山運動公園を一斉にスタート。沿道では多くの市民が、選手の力走に熱い声援を送りました。第1中継所では、七合がトップでタスキをつなぎました。その後、2区で4人を抜いた中央北が7区まで首位をキープ。8区でトップに躍り出た鴻野山Aが、2位の藤田に1分25秒の差をつけ優勝のゴールテープを切りました。

悲願を達成した鴻野山Aの増山正行監督は、「やっと藤田の連

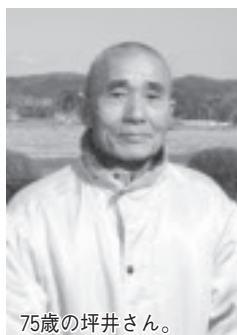


区間賞の表彰。

覇を阻止できた。11月中旬から練習を始めたが、陸上経験者など選手に恵まれたのが勝因」と喜びを語りました。

総合成績並びに区間賞は、左表のとおりです。

なお、75歳の坪井利雄さんが、



75歳の坪井さん。



藤田チームの選手宣誓。

山あげBの最終ランナーとして出場し、元気な走りを見せてくれました。

平成24年度全国学力・学習状況調査より 落ち着いた学校・家庭生活 中3はH21調査と比べ伸びも

全国学力・ 学習状況調査

文部科学省では、児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への指導や学習状況の改善等に役立てるために平成19年度から「全国学力・学習状況調査」を実施しています。

【調査対象】

小学6年生、中学3年生

【調査内容】

○**教科に関する調査**(国語、算数・数学、理科)

・A問題 主に「知識」に関する調査

・B問題 主に「活用」に関する調査

○**生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査**

・児童生徒に対する調査

・学校に対する調査

■学校教育課 ☎0287-88-6222

○小学校国語B

「目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら返事の仕方と内容を記述する問題」(55.2%)は、全国よりやや低い正答率です。一方、全国で正答率が最も低い「手紙の後付に必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置を適切に選択する問題」(23.5%)は、全国より高い正答率でした。

今回の調査では、従来の国語と算数数学科に、初めて理科が加わりました。本市の平均正答率は、中学校国語B、理科で全国を上回り、そのほかは、小中学校とも全国と大きな差は見られませんでしたが、科目別の結果は、次のとおりです。なお、(一)内の数字は、全国の公立学校の正答率です。

学習面

○小学校国語A

「場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら音読する問題」(73.3%)は、全国より高い正答率です。一方、「学校新聞に必要な事柄を整理し、一文にまとめて書く問題」(43.2%)は、全国と同様に今後の課題です。

○小学校国語B

「測定値の平均を求める問題」(86.9%)や「四角形の内角の和が360度であることを利用する問題」(76.9%)は、全国より高い正答率です。一方、「46-021の計算」(63.1%)や「はがきの面積を予想する問題」(60.6%)には課題がみられました。

○小学校算数A

「高さの異なる2種類の跳び箱を同じ高さにする問題」(56.2%)は、全国より高い正答率です。一方、「表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を記述する問題」(23.3%)は、全国と同様に正答率が低く、今後の課題です。

○小学校算数B

「水に溶けている砂糖の様子について、実験結果から適切な図を選択し、その理由を記述する問題」(54.4%)や「虫眼鏡の適切な操作方法を選択する問題」(65.0%)等は、全国より高い正答率です。一方、「氷砂糖を細かく割ったときの全体の重さを選択する問題」(85.8%)や「氷砂糖を水に溶かしたときの全体の重さを選択する問題」(76.3%)は、全国より正答率がやや低く、今後の課題です。

○中学校理科

「手紙の前文の最初に書かれる言葉の名称として適切なものを選択する問題」(89.2%)や「相手に応じて文章を書き直す問題」(84.9%)は、全国より高い正答率です。一方、「たなびく」という言葉の意味を場面や情景と結び付ける問題」(46.9%)や「説明文に書かれている内容と、絵表示の内容を比較し、必要な情報を読み取る問題」(40.3%)は、全国と同様に低い正答率で、今後の課題です。

○中学校国語A

「基本的な計算問題や数の理解の正答率は全国と同等です。また、「三角柱の展開図を選択する問題」(92.8%)や「直方体の辺と面上の線分との位置関係についての問題」(86.9%)の正答率が高くなっています。一方、「連立方程式を解く問題」(80.5%)や「三角形の合同条件を基にして、与えられた三角形と合同な三角形を選ぶ問題」(66.8%)は、全国よりやや低い正答率で、今後の課題です。

○中学校数学A

どの項目も全国と同等か、やや上回った正答率です。特に、「対談の展開を整理したものとして適切なものを選択する問題」(80.8%)や「資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄を明確にして書く問題」(68.4%)等は、全国と比べ高い正答率です。一方、「これからのような言葉の使い手になりたいか」という課題に対して、自分の体験や読書の経験などに基づいた具体例を挙げながら記述する問題」(40.4%)は、全国と同様に正答率が低く、今後の課題です。

○中学校国語B

「水に溶けている砂糖の様子について、実験結果から適切な図を選択し、その理由を記述する問題」(54.4%)や「虫眼鏡の適切な操作方法を選択する問題」(65.0%)等は、全国より高い正答率です。一方、「氷砂糖を細かく割ったときの全体の重さを選択する問題」(85.8%)や「氷砂糖を水に溶かしたときの全体の重さを選択する問題」(76.3%)は、全国より正答率がやや低く、今後の課題です。

○中学校数学A

基本的な計算問題や数の理解の正答率は全国と同等です。また、「三角柱の展開図を選択する問題」(92.8%)や「直方体の辺と面上の線分との位置関係についての問題」(86.9%)の正答率が高くなっています。一方、「連立方程式を解く問題」(80.5%)や「三角形の合同条件を基にして、与えられた三角形と合同な三角形を選ぶ問題」(66.8%)は、全国よりやや低い正答率で、今後の課題です。